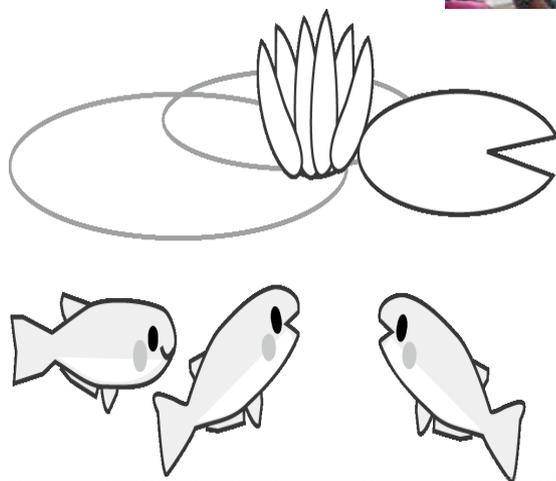
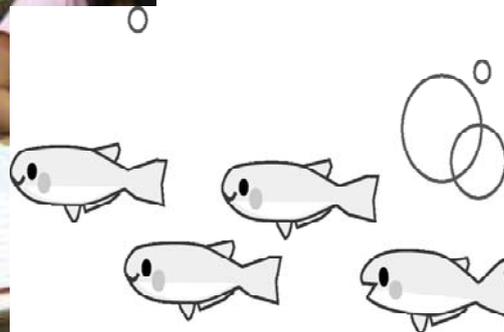


# 確かな読みの力を身につける説明文の学習指導の工夫 ～要点指導と文章構成の可視化を通して～



© TUKAMOTO

那覇市立小祿南小学校教諭  
奥間 ナリ子

# 目次

I	テーマ設定の理由	25
II	研究の目標	
III	研究仮説	25
1	基本仮説	
2	作業仮説	
IV	研究構想図	26
V	研究の内容と方法	27
1	確かな読みの力について	
(1)	国語科の視点から見た「習得・活用・探究」の考え方	
(2)	本研究における「確かな読みの力」	
2	説明文でつけたい読みの力	
(1)	説明文とは	
(2)	つけた読みの力	
3	読み取り指導について	
(1)	読む視点	
(2)	要点指導の手順	
4	意見交流による文章構成の可視化	
VI	授業実践	30
1	単元名	
2	単元目標	
3	単元の評価規準	
4	指導と評価の計画	
5	本時の学習 検証1	
6	本時の学習 検証2	
VII	結果と考察	33
1	検証1	
2	検証2	
VIII	研究の成果と課題	36
1	成果	
2	課題	

《主な参考文献》

## 確かな読みの力を身につける説明文の学習指導の工夫 ～要点指導と文章構成の可視化を通して～

那覇市立小祿南小学校教諭 奥間ナリ子

### I テーマ設定の理由

2010年に出されたOECD(経済協力開発機構)が実施したPISA調査(学習到達度調査)の結果で、日本の子どもたちの「文章中の情報を選び出すのはできるが、その解釈や評価は苦手」という実態が浮き彫りになった。PISA調査は、「読解の知識や技能を実生活で直面する課題にどの程度活用できるかを評価する」ことを目的としている。これは、平成23年施行された現行の学習指導要領国語科における、言語教育としての立場を重視し、自分の考えを持って論理的に意見を述べる能力、目的や場面に応じて適切に表現・的確に読み取る能力が重視されたことにつながり、喫緊の課題となっている。

ところで、本校の児童は活気があり、学習においては、与えられた課題には真剣に取り組める児童が多い。しかし、文章全体を総合的に読み取って答えを導き出す力が弱く、複数教科にわたって、題意の取り違い場面をよく目にする。これは、沖縄県学力到達度調査の結果分析からも、文脈に即して状況や内容を正しく読み取ったり、叙述に即して人物の気持ちや様子を正しく読み取るのが苦手な児童が多いことから伺える。彼らに共通していることは、文を的確に読み取れない、言葉のもつ意味や働きから表現された内容を読み取って理解し判断することが苦手ということである。これは、児童の実態として、文章の読み取り方が身に付いていないと考えられる。

言葉を的確に理解し、論理的に読解・思考し表現する能力をいかに高めていけば良いかと考えたとき、「文章に何が書かれているかを読み取ること」「問われたことの答えを探すこと」に終始してしまいがちなこれまでの私の実践では、確かな読みの力がつけられたとは言い難い。ここでの「確かな読みの力」とは、書かれている内容や構成の特徴を正確に読み取り、読み取ったことに対する思いや考えを表現する力のことである。何をどのように読めばよいのか、文や文章の仕組みをどのように捉えればよいのか、捉えたことをどのように表現すればよいのかという指導が弱かったのではないかと反省している。

従って本研究では、説明文を中心に、文章を正確に読み取る方法を身につけさせる要点指導と、読み取ったことを意見交流させながら段落相互の関係を捉える活動を取り入れた学習指導の工夫を図ることで、確かな読みの力が身に付けられると考え、本テーマを設定することにした。

### II 研究目標

確かな読みの力を身に付けさせるために、説明文における学習指導を工夫し実践的に研究する。

### III 研究の仮説

#### 1 基本仮説

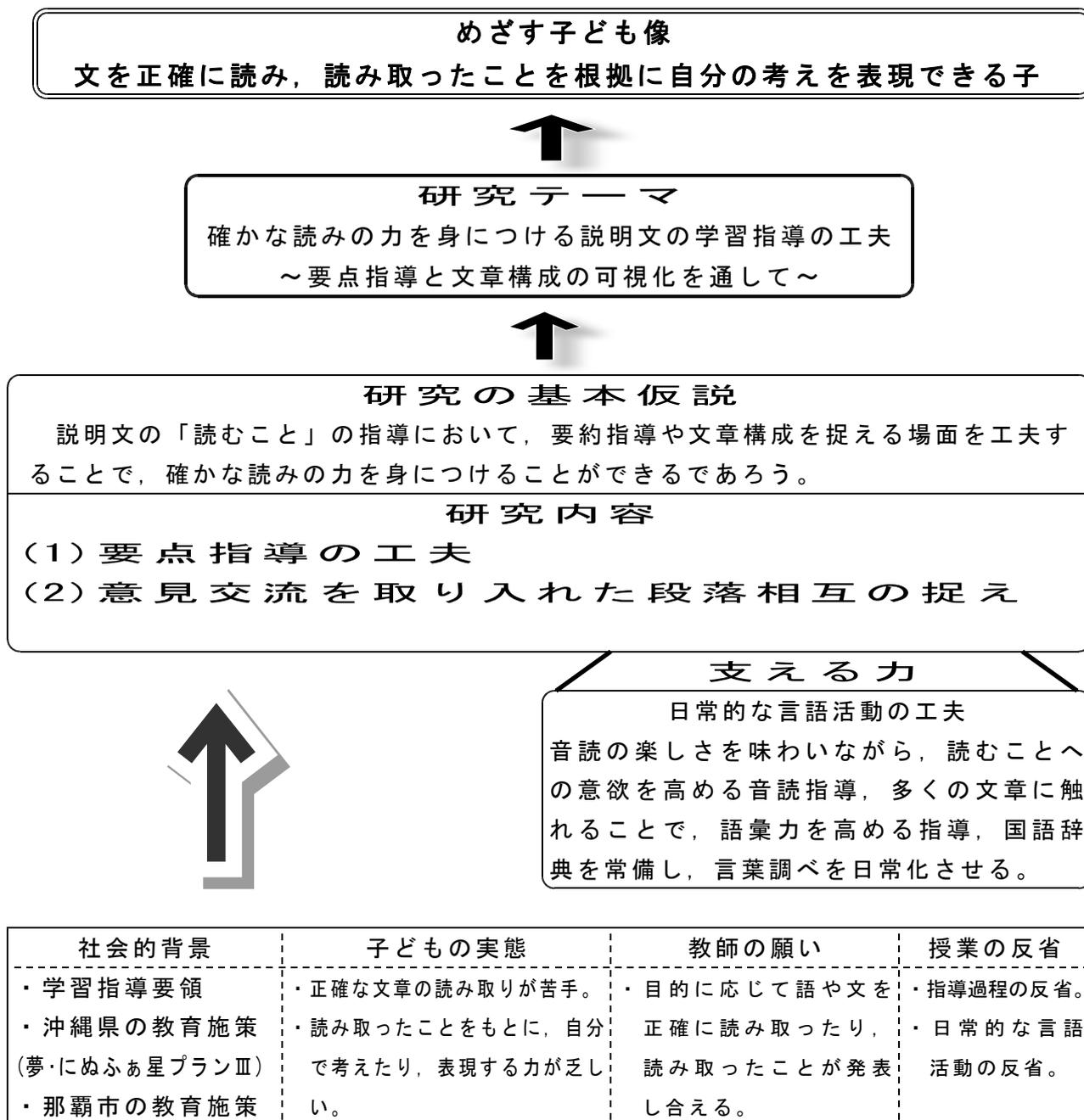
説明文の「読むこと」の指導において、要点指導や文章構成を捉える場면을工夫す

ることで、確かな読みの力を身につけることができるであろう。

## 2 作業仮説

- (1) 説明文のしくみについて知り、文中の言葉や接続語・指示語に着目しながら要点まとめの指導の工夫を行うことで、根拠を明らかにしながら叙述や文脈に即して読むことができるであろう。
- (2) 要点まとめをもとに、意見交流を行いながら文章構成を可視化していくことで、段落相互の関係をとらえることができるであろう。

## IV 研究構想図



## V 研究の内容と方法

### 1 確かな読みの力について

#### (1) 国語科における活用する力の育成

国語科の改善の基本方針では「言葉を通して的確に理解し、論理的に思考し表現する能力、互いの立場や考えを尊重して言葉で伝え合う能力を育成すること」を重視している。そして、学習指導要領国語解説編には、改訂の要点として「国語の能力を調和的に育て実生活で生きて働くように、それぞれの領域の特性を生かしながら児童主体の言語活動を活発にし、国語科の目標を確実かつ豊かに実現できるように内容を改善した。」とある。青木伸生は「キーワードは、「実生活で生きて働くように」であり、身につけさせなければならないのは、言葉の生活をより豊かにするための『生きて働く言語力』（2008）と述べている。また、「生きて働く力」としての言葉の力を「活用する力」と捉え、何を活用させるのかを明確にした活用型学習の重要性を論述している。

では、「読むこと」における活用する力とは何か。青木は「◎学んだこと（読み方）をもとに、次の作品を自分の力で読み解くこと ◎学んだこと（読み方）を使って、自分で表現すること ◎学び方そのものを、自己修正しながら次の活動に当てはめていくこと」（2009）とし、やはり身につけるべき力の明確化、系統的に学習材を配列してスパイラルに指導を積み上げていくことを述べている。そして、その身に付けるべき力が「確かな読みの力」ととらえられる。

#### (2) 本研究における「確かな読みの力」

本研究において「確かな読みの力」を以下の4点でとらえる。

- ① 目的や叙述に即して正確に読み取る力
- ② 内容を正確に理解する力
- ③ 文章構成を正確に読み取る力
- ④ 目的や場面に応じて適切に表現する力

これらの力をつけるために、物語文や説明文を正確に読み取るための知識や技能を習得し、学んだことをもとに自分の考えを記録、説明、論述したり、課題解決をして活用を図る。また、活用していくなかで習得したことの定着を図り繰り返し関連させていく。そして、次の学習や教科等を横断した問題解決的な学習に活かしていく探究活動へと発展させることで、上記のような児童が育成できると考える。

### 2 説明文でつきたい読みの力

#### (1) 説明文とは

説明文とは、「書き手が、ある内容（知識・情報など）を、それについて知りたいと思っている人に、要点を整理して、よくわかるように「説き明かす」文章のことである。」（吉田裕久 国語教育指導用語辞典2011年）と定義されている。そして、説明文指導のねらいとして、藤田伸一（2007）は次の4つを挙げている。

- |   |                                   |
|---|-----------------------------------|
| ア | 読みを通して対象の本質にせまり、自然や社会、人間や文化を認識する。 |
| イ | 書き手の認識思考、論理の展開を吟味し論理的思考をつける。      |
| ウ | 科学的な概念形成を図り、理論言語を獲得する。            |

エ 論理的思考と理論言語を駆使して、論理的に表現できるようにする。

よって、説明文の学習は、目的や叙述に即して正確に読み取り正確に理解する力、目的や場面に応じて適切に表現する力である「確かな読みの力」をつけるために有効といえる。

## (2) つけたい読みの力

では、説明文を学習材にした読みの力として具体的にどんな力を獲得させればよいのか。二瓶弘行は「①伝えたいことを正確に受け取る力（論理的にしっかり読み進めることであり、正確によみとることは、読者が納得してうけとること）②伝えたいことの「伝え方」について意見をもつ力（伝え方のよさや改善点について意見をもつこと）③「伝えたいこと」に対して自分の意見・感想をもつ力（筆者の考えを正確に理解したうえで、自分の意見をもつこと）」(2011)とし、系統的な指導の重要性も述べている。

そこで、指導要領国語解説編において「C読むこと」領域の説明文における目標及び内容の系統をもとに、説明文の基礎的・基本的な知識・技能の重点指導内容を低・中・高学年ごとに整理した。学年ごとに指導しなければならない具体的な内容・用語を表1で明確にすることで、系統的な指導が行えるようにした。（東京都東村山市立富士見小学校の説明文の読解力スキル「富士見スキル」を参照・一部改編）

本研究では、自分の考えをある程度もって文章が読むことができるようになる第3学年への指導を行う。そこで、指導要領・重点指導事項をもとに、説明文「読むこと」の単元名と目標系列、つけさせたい読みの力として重点的におさえたい事項を図2にまとめた。

表1 学年別重点指導事項 ①重点指導 〇指導

用語	低学年	中学年	高学年
問いと答え	◎	○	○
順序	◎	○	○
主語・述語	◎	○	○
形式段落	◎	◎	○
中心語句	○	◎	○
指示語・接続語		◎	○
段落のまとめ		◎	○
要点		◎	○
小見出し		◎	○
文章構成		○	◎
要約		○	◎
要旨			◎

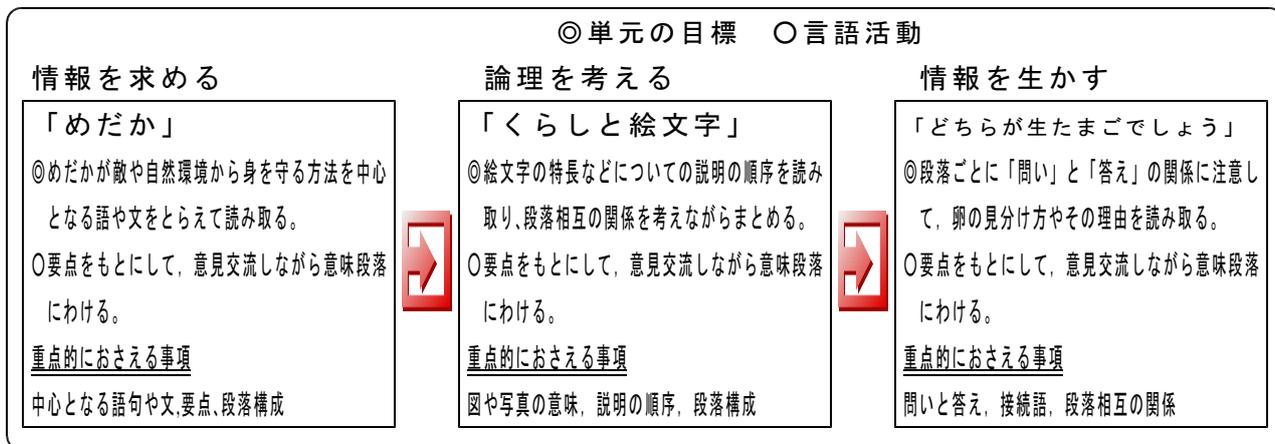


図2 第3学年「読むこと」（説明文）の目標系列と重点的におさえたい事項

（教育出版 第3学年指導書、「活用につながる読むことの授業づくりに関する研究：「読みのフレーム」による教科書教材の特性の分析」東京学芸大学附属学校研究紀要2011-08、38:69-82を参照して作成）

### 3 読み取り指導について

#### (1) 読む視点

白石範孝は中学年における読む視点を右記の5つをあげ、それらの視点で内容を読んでいくことによって、何がどのように書かれているかという段落相互の関係をとらえた読み方ができると述べている(2006)。

- ◇何が書かれているのか？
- ◇何のために？(目的)
- ◇いくつ説明しているか？
- ◇わかったことは何か？
- ◇答えとの関係は？

そして、指導事項を、

・「要点」をとらえる(形式段落レベルで、文章や段落の中で筆者が述べようとしている主要な内容。その中の重要な文や語句をもとにして、短い文にすること。)

・「意味段落」をとらえる(要点をもとにして、意味のまとまりをつけること。)

とし、意味段落をとらえるための手段として、要点をまとめることをあげている。

「要点」をまとめることができたなら、「意味段落」も見え、この後の「要約」「要旨」の指導へとつなげていくことができる。そのため、「要点」をまとめることを中心とした指導が重要となってくる。

#### (2) 要点指導の手順

① いくつの文で構成されているかを読み取る。

⇒ 一文ごとの役割が把握しやすくなる。

② 中心となる文を見つける。

- ・それぞれの文の役割を考えさせる。
- ・それぞれの文の中から、結論が述べられている文を見つける。
- ・形式段落内の主語と述語からみつける。

⇒ 一文ごとの役割や内容を読み取ることができる。

③ 短い文にまとめる。

⇒ 段落の中で筆者が述べようとしている主要な内容＝要点をとらえることができる。

※以上を踏まえて白石(2006)の要点のまとめ方を一部改編し、図3 児童配付用「要点をまとめるじゅん番」を作成した。

**要点をまとめるじゅん番**

要点＝段落に何が書いてあるかを、大事な文や言葉をもとにして短くまとめたもの

① 形式段落はいくつの文でできているかを数えよう。

② 中心となる大切な文を見つけよう。

- ・それぞれの文の役わりや内ようを考えてみよう。
- ・段落の中でいちばん大事な文、中心になる文を見つけよう。
- ・一文になっていないときは、くり返し出てくる言葉、だいたい名とつながりのある大事な言葉をさがしてみよう。

③ 短い文にまとめよう＝要点

- ・一文を短くまとめよう。(「である調」になおそう。)
- ・主語・じゅつ語・大事な言葉をつないで一文にしよう。

図3 児童用要点をまとめるじゅん番

#### 4 意見交流による文章構成の可視化

確かな読みを深めるには、他者との交流も有効である。学習指導要領国語においても、各学年の目標及び内容の系統表「C読むこと」における(1)「自分の考えの形成及び交流」第3学年及び第4学年では「才 文章を読んで考えたことを発表し合い、一人一人の感じ方について違いのあることに気付くこと」と明示されている。文章を読んで考えたことを互いに交流することにより、互いの感じ方や考え方の違いに気付

きつつ、自分の考えを見直して思考を深めさせることができる。ただし、ただ考えた事を言い合うのではなく、根拠を持って思考したことを交流させることが重要である。

そこで、本研究では、段落相互の関係を確実に捉えさせるため、要点としてまとめた形式段落を短冊にし、意見交流させながら意味段落わけをして小見出しをつける学習を行う。意見交流しながら文章構成の可視化を行うことで、思考の深まりをねらいたい。文章構成化の方法として、二瓶(既出)が提唱する“説明文における「序論・本論・結論」”を“「はじめ・説明・おわり」の三つの大部屋”という用語に置き換えての指導を行う。説明文を「家」に見立て、3つの大部屋といくつかの小部屋に分けることで説明文のつくりへの理解をさせやすくしていきたい。ただし、基本的な説明文のつくり (図4参照) についての事前指導は行っておく。

文章構成を考える時の交流形態は、全員思考が促しやすい3人グループで行い、他グループとの比較も行いながら、最終的には全体で一つの文章構成を立てていくものとする。

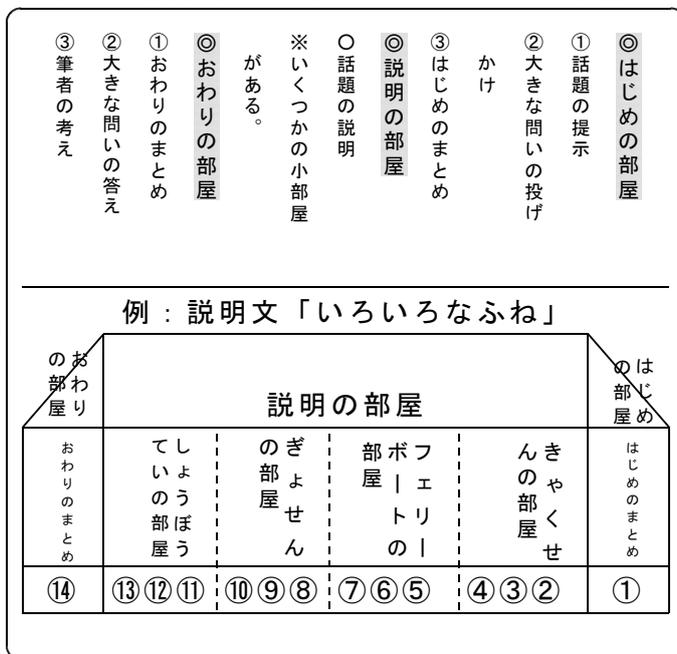


図4 基本的な説明文のつくり

## VI 授業実践

1 単元名 「じょうほうをもとめて読む」 教材「めだか」

### 2 単元目標

○書かれていることに興味を持ち、身の守り方について進んで考えたり、図書資料などを読んで調べたりしようとする。(関心・意欲・態度)

○めだかの身の守り方や体の仕組みについて、要点にまとめて書くことができる。(書くこと)

◎大事なことを落とさずに、内容を正しく読み取ることができる。(読むこと)

◎段落相互の関係やまとまりを理解する。(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

### 3 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
【関】読む目標を意識し、内容の中心をとらえたり、段落相互の関係を考えたりしながら読もうとしている。	①目的に応じて、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係を考え、文章を読んでいる。 ②目的や必要に応じて、文章の要点や細かい点に注意しながら読み、文章を引用したり要約したりしている。	指示語や接続語が文と文との意味のつながりに果たす役割を理解している。

#### 4 指導と評価の計画（7時間）

時間	○学習活動 ◎指導上の留意点	評価規準（評価方法）
1	○全文を読み、初発の感想を書く。 ※新出漢字・語句調べ ◎教材を読むめあてを明確にもたせ学習の流れをつかませる。→「めだか新聞」をつくろう	【関】めだかについて関心をもちながら教材文を読み、初めて知ったことなどを発表したり、書いたりしようとしている。（ノート記述・発言）
2	○形式段落のうち、①～⑧段落を読み取る。 ◎文や写真からどんな情報が取り出せるかを考えさせて読み取らせる。 ◎中心文を意識させる。	【読①】キーワードとなる語句を見つけ、写真や挿絵と本文を結びつけて読み取っている。 【言】指示語、接続語を手がかりにしながら、中心文をとらえている。（教材文書き込み・発言）
3	○形式段落①～⑧の要点をまとめる。 ◎「『要点』をまとめるじゅん番」を使ってまとめさせる。	【読②】「問い」と「答え」の文やキーワード、指示語や接続語を手がかりに、段落の要点をまとめている。（ワークシート・発言）
4	○⑨～⑫段落を読み取る。 ◎文からどんな情報が取り出せるかを考えさせて読み取らせる。 ◎中心文を意識させる。	【読①】キーワードとなる語句を見つけ、内容のつながりを考えながら読み取っている。 【言】指示語、接続語を手がかりにしながら、中心文をとらえている。（教材文書き込み・発言）
5 検 証 1	○形式段落⑨～⑫の要点をまとめる。 ◎「『要点』をまとめるじゅん番」を使ってまとめさせる。	【読②】キーワード、指示語や接続語を手がかりに、段落の要点をまとめている。（ワークシート・発言）
6 検 証 2	○全文を読み、形式段落の要点をもとに文章構成について話し合う。 ◎説明文の「はじめ」「説明」「おわり」の3つの部屋について想起させる。 ◎相互交流することで、自分の読みを深めさせる。	【読①】形式段落の要点を振り返って、文章の組み立てを考えながら大きな3つのまとまりに分けている。（ワークシート・発言）
7	○「めだか」で読み取った事、自分で調べたことを整理し、「めだか新聞」に書きまとめる。	【読②】めだかについてどのようなことが書いてあったか振り返りながら、文章の構成や表現をそのまま生かして短くまとめたり、学習してわかったことや自分の感想などを書きまとめたりしている。（新聞記述・観察）

#### 5 検証1の学習 【5／7時間】

##### (1) 目標

キーワードや指示語、接続語を手がかりに、段落の要点をまとめることができる。

##### (2) 授業仮説①

要点まとめの場面において、まとめのポイントを使って個人で取り組んだり、グループで話し合いながら要点まとめの確認をすることで、段落の要点をまとめることができるであろう。



## Ⅶ 結果と考察

### 1 検証 1

#### (1) 仮説 1

説明文のしくみについて知り、文中の言葉や接続語・指示語に着目しながら要点まとめの指導の工夫を行うことで、根拠を明らかにしながら叙述や文脈に即して読むことができるであろう。

#### (2) 結果と考察

##### ① 要点まとめから

読み取りの際、次のaからcの3つを押さえて指導したことで、要点まとめでは、「要点をまとめるじゅん番」を使ってまとめることができていた。

- a 文章の中で何を指しているのかわからない言葉があったら、少し前からもう一度読んだり、少し先まで読んで意味を見つけること。
- b 大事な言葉を探す時は、題名と関わりのある言葉や話の中心になる言葉を見つけること。
- c 段落の主語は何かを見つけること。

以下は児童Aの日記である。

(前文略) さいしょ、要点まとめなんてできないと思っていました。でも、「要点をまとめるじゅん番」をつかってまとめたり、グループでたしかめながらやっていったらできました。大事なことばを見つけてつなげて「である調」にしたのがおもしろかったです。ほかのものでもやってみたいです。(後文略)そして、どのように「大事なことばを見つけて」たのかが伺える児童Aの感想を示す。

話の中心になつている言葉やなんども出てくる言葉をさがしたり、つなぎ言葉に気をつけないら要点まとめたのが楽しかった。 授業後の感想より

その他要点まとめの児童の感想として「主語に線を引いてみると、段落の中心がだいたいわかった。」「“こうして～だけではありません”が大事な文だと思っていたのにグループで前と後ろの段落を何度も読み返してほかの大事な文を見つけた段落があった。」とあり、大事な言葉の探し方、段落前後の捉え方を意識したまとめ方がみられた。

ところで、図5は児童Cの要点まとめである。囲み部分は、主語として形式段落内で使われていない言葉である。しかし、前後の文章から主語として付け加えており、文脈に即して読み取っている姿が伺える。

以上から、要点まとめの指導の工夫を行うことで、根拠を持って読み取る力がつきつつあるといえる。

『めだか』要点まとめ

- ①めだかの歌。
- ②めだかは小さな魚。
- ③めだかは、たかさんのてきにねらわれている。
- ④めだかは、てきからどのようにして身を守っているのか。
- ⑤第一に、めだかは、小川や水面近くでくらし、身を守っている。
- ⑥第二に、めだかは、すばやく泳いで、身を守っている。
- ⑦第三に、めだかは、小川や池のそこにもぐって水をにこらせて身を守っている。
- ⑧第四に、めだかは、何十匹も集まって泳いで身を守っている。
- ⑨めだかの体には、自ぜんのきびしさにもたえられる仕組みがある。
- ⑩めだかの体は、四十度近くまでは、水温が上がってもたえられる。
- ⑪めだかの体は、真水に海水のまざる川口の近くでもたえられる。
- ⑫めだかは、いろいろな方法でてきから身を守り、自ぜんのきびしさにもたえながら生きている。

図5 児童Cの要点まとめ

## ② 事前・事後・初見のテストから

事前に行った読み取りテストの正答率は74.2%であったが、事後の同問題テストでは93.9%，単元指導後に行った初見の読解力問題は、97.1%であった。（図6参照）

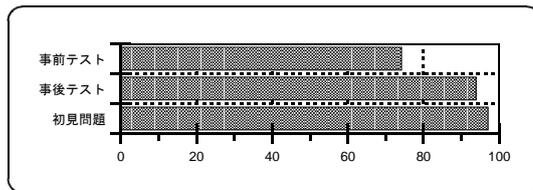


図6 読み取りテストの正答率

要点を問う問題では、事前テストでは本文を丸ごと書き出す記述が多かったが、事後テスト、初見問題では、要点にまとめて書く記述が増えている。図7は、児童Bの事前・事後の記述の比較である。（とんぼのひとつめのひみつは何かを問う問題）

「まず、ひとつめのひみつは、そのしゅるいがとても多いことです。日本には、およそ二百しゅるい、世界には、なんとやく五千しゅるいものとんぼが生きています。」

事前テスト	事後テスト
しゅるいが多いことです。日本にはおよそ二百しゅるい、せかいに五千しゅるいものとんぼがいる。（文章への書き込み無し。）	しゅるいが多いこと。（大事な言葉に印をし、指示語の内容まで意識している。）

~~~~~ 児童の書き込み

図7 事前・事後テストの記述比較

また、事後・初見問題において、32名中18名（56%）が問題文中の大事な部分に棒線を引く様子が見られた。初見問題における要点部分への書き込みは、全員「これは」「これらの」といった指示語とそれが指す言葉への書き込みは11名であった。

これらの結果から、文中の言葉や接続語・指示語に着目しながら要点まとめをする指導を行ったことで、他の文章においても確かに読み取ろうとする姿勢が見られるようになっており、確かな読みの方法を提示して読み取らせる指導は有効である。

## 2 検証2

### (1) 仮説2

要点まとめをもとに、意見交流を行いながら文章構成を可視化していくことで、段落相互の関係を捉えることができるであろう。

### (2) 結果と考察

説明文のつくりを「家」に見立て、形式段落の要点を「はじめ・説明・おわり」の大部屋にわけ作業（図8参照）をグループで行うことで、自分の考えの妥当性を確かめたり、他の考えにも気づき、違いの理由を考えたり説明し合う場面がいくつも見られた。形式段落②が「はじめ」か「説明」の大部屋かで迷ったグループが10グループ中4つあったが、教材文を読み直したり、前後の要点文を見直したりしながら部屋わけを行っていた。図9は一グループの話合いの様子である。

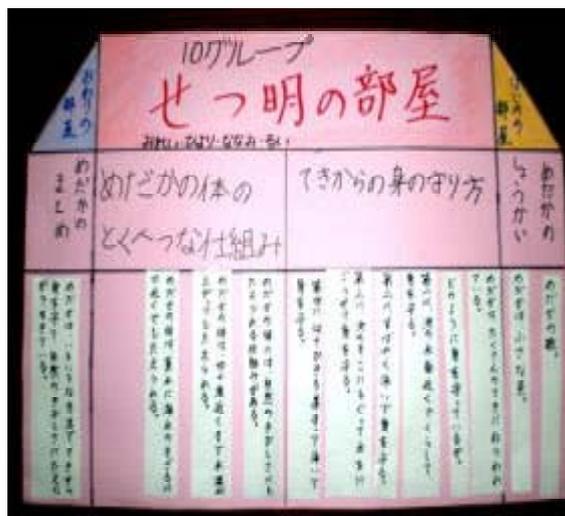


図8 要点の部屋わけ

----- は考えの変化が見られる部分

~~~~~ は説明の根拠を示している。

児童D: ②は「説明の部屋」だよ。

児童E: ③からはめだかのてきとてきからの身の守り方について話が続いているけど、②はめだかのことだけだよ。

児童D: 「説明の部屋」で、その小部屋になるんじゃない。

児童F: ①がめだかの歌だけで、②でめだかは小さい魚と紹介している。「はじめの部屋」は話題の提示もあったよ。②はめだかの紹介だから、②は「はじめの部屋」になるんじゃない？

児童D: そうか。

考えの変化

前後の段落を捉えて説明している。



図9 部屋わけの様子

付箋にした要点を使って、「家」という文章構成図に目に見える形での「部屋分け」（意味段落分け）を意見交流しながら取り組んだことで、意見を出しながら思考している様子が伺える。

以下は授業後の児童の感想である。

児童G: 部屋分けの時、前後の要点が何をいっているのかを見ると、どこの部屋に入るのかわかった。

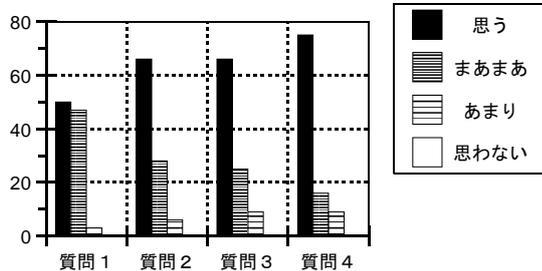
児童H: 部屋のひみつを考えながら、「はじめ」「せつ明」「おわり」の3つの部屋に説明しながら分けることができ楽しかった。

以上から、文章構成の可視化では、付箋にした要点を使って説明文の作りを意識しながら部屋分けすることで、段落相互の関係を捉えることができる。

尚、大部屋に分けた後、説明の部屋の小部屋わけは、どのグループも2部屋に分けることができていた。部屋の名前付け（小見出し）は、部屋ごとに分けられた形式段落の要点をもとに全グループできていた。

### 3 事後アンケートからの結果と考察

事後アンケート結果



質問1: 形式段落の大事な文を見つけられるようになったと思いますか。

質問2: 「要点をまとめるじゅん番」のカードを使ったりすることで、要点のまとめ方のコツがわかったと思いますか。

質問3: 要点をもとに「はじめ」「説明」「おわり」の部屋にわけたり、小部屋にわけすることで、説明文の作りがわかったと思いますか。

質問4: 自分の考えを出したり、友達の考えを聞いたりして、要点をまとめたり、部屋わけしたのは自分の勉強になったと思いますか。

図10 事後アンケート

意見交流に関して、図10事後アンケートの質問4「自分の考えを出したり、友達の考えを聞いたりして、要点をまとめたり、部屋わけしたのは自分の勉強になったと思いますか。」では「思う」75%「まあまあ思う」16%となっている。その理由を、事前アンケートでは、話し合い活動が好きな理由として「自分と違う考えが出るとなるほ

どと思う。」「自力で答えが出せなかった時、答えに気づける。」といった他者からの気づきによる受動的参加が多かったのに対し、指導後では「わからない人になぜこう分けるのかを説明して納得してもらえてうれしかった。」「部屋の分け方を聞いて、説明文のつくりがわかった。小見出しは自分で意見が出せた。」といった能動的参加へと学習意欲が変化している。

また、質問3「要点をもとに『はじめ』『説明』『おわり』の部屋にわけたり、小部屋にわけること、説明文のつくりがわかったと思いますか。」では、「思う」「まあまあ」合わせて91%の児童が答えている。これは、初めて説明文のつくりについて学習（説明文を「家」に見立てて、「はじめ」「説明」「おわりの3つの大部屋と小部屋にわけて説明文のつくりを理解する）した時の児童の感想からも伺える。「長い文章が3つの部屋に分けられることにびっくりした。「家」で考えると面白い。」「説明の部屋を小部屋に分けると、部屋の名前がつけやすかった。」とあり、説明文のつくりを、イメージしやすい「家」「大部屋」「小部屋」と仮定（＝可視化）することで理解しやすかったといえる。

ところで、事後アンケートで本研究における学びの充実感を確認したところ、平均90.1%の到達率であった。その理由として「大事な言葉のみつけ方がわかった。」「要点のまとめ方がおもしろかった。」「グループで話し合うのが勉強になった。」等があった。

ただ、質問1の「形式段落の大事な文を見つけられるようになったと思いますか。」で、読み取りの押さえどころである「大事な文を見つける」が「思う」と自信を持って回答した児童が半分程度にとどまっており、継続指導が必要である。今後の二つの説明文教材において、目標系列に沿った指導を重ねて行っていきたい。

## Ⅷ 研究の成果と課題

### 1 成果

- (1) 説明文のしくみについて知り、文中の言葉や接続語・指示語に着目しながら要点まとめの指導の工夫を行ったことで、根拠を明らかにしながら叙述や文脈に即して読むことができるようになってきた。
- (2) 要点まとめをもとに、意見交流を行いながら文章構成を可視化したことで、段落相互の関係を捉え、読みを深めることができつつある。

### 2 課題

- (1) 確かな読みがうまくできない児童へのさらなる手立て。
- (2) 説明文の目標系列に沿ってステップアップしていく指導の構築。

#### 《主な参考文献》

|                          |          |                       |      |
|--------------------------|----------|-----------------------|------|
| 『小学校学習指導要領解説 国語編』        | 文部科学省    | 東洋館出版社                | 2008 |
| 『論理的思考力を育てる説明文の授業』       | 藤田伸一     | 学事出版                  | 2007 |
| 『要点・要約・要旨の基礎的学習で読解力を高める』 | 白石範孝     | 学事ブックレット              | 2006 |
| 『国語授業のつくり方』              | 二瓶弘行     | 東洋館出版                 | 2011 |
| 『活用力を育てる説明文の授業』          | 錫国語授業研究会 | 東洋館出版                 | 2008 |
| 『指導と評価』2009年9月号          | 青木伸生     | 日本図書文化協会<br>日本教育評価研究会 |      |